

両親がくれた宝物

チョウ・メイウ

私たちの生活の中には、当たり前前に存在すると思うものがたくさんあります。しかし、それを実際に失った時、当たり前だと思っていたものが消えた時、それがどれほど大切なものかが分かります。そのようなものの中から、両親からもらったものを見直してみました。

両親は、生まれたときから一緒にいる最初の2人です。彼らは子供に無条件に与えてくれます。しかし、与えてくれることを当然と思って良いのでしょうか。答えは「ノー」です。私は、日本に単身留学してからそれが分かりました。自分で日本に生活すると、今まで当たり前ものと考えていたことを、すべて自分でやるようになりました。面倒くささと疲れを感じます。自分の家の掃除、洗濯、料理、アパートの契約、引っ越し、家具の購入、設置、公共料金や家賃の支払いなど、今では全部自分でやらなければなりません。最初はとてもイライラして、毎日の雑用の多さにストレスや不満を感じていました。しかし、よく考えてみると、これらはすべて昔自分が当たり前前に思っていたことだったのではないのでしょうか。毎朝、父が車で学校まで送ってくれて、午後は下校時間になると迎えにきてくれて、家に帰ると母が温かいご飯を作ってくれています。なぜ自分がこのようにのんびりとした生活を送れるのか、以前は全然考えたことがありませんでした、それは両親のおかげでした。両親は家事だけでなく、生活上のプレッシャーやお金を稼ぐための仕事もあります。私はと言うと、留学中の生活費や学費の心配をすることなく、勉強さえしていればよいのです。来日当初、試験のストレスが大きく、毎日母と通話していました。母はいつも微笑んで、私を励ましてくれました。大学に入学した後、友達もできて、母との連絡は少なくなりました。彼女は何も言わずに、ただ私は最も困難な時、私を助かります。しかし、よく考えてみると、母が直面するプレッシャーやストレスは、私より何倍も大きいのではないのでしょうか。今の私は、そのことがだいたい分かるようになりました。両親は私に出世や金持ちになることを要求していません。彼らは見返りを求めず、ただ私の幸せを願い、健康に成長し、将来自分の家庭を築くことだけを願っています。それはどの家族にも共通することなのではないのでしょうか。

両親が私にくれた愛こそ、私が当たり前だと思っていた、かけがえのない宝物です。